

あかるい 元気な 鶴見っ子

鶴見の子どもたちは、みんな明るく元気です！

その鶴見は世界につながる海が広がり、大型船が

行き交っています。緑あふれる丘陵地帯、カヌー

や花火大会が楽しめる鶴見川、歴史を伝える街角・

町並など、夢を育む大きな舞台が用意されています

す。やさしい地域の人たちに見守られて、すくす

く伸びやかに未来への夢を育みましょう！

いにしえの 暮らし伝える 横溝屋敷

みその公園「横溝屋敷」は、獅子ヶ谷にあります。

茅葺の長屋門や母屋などの屋敷構えが、江戸時代

の農村生活の原風景を伝えています。七草がゆ・

ひなまつり・七夕まつり・月見の会などの年中行

事も大人気！五郎兵衛稲作教室では、小学生たち

が田植えから収穫までを体験しています。横浜市

指定有形文化財です。

海うみにはばたくつばさ橋ばし

鶴見つるみには海沿うみぞいに2本の高速道路ほんこうそくどうろが通とおっています
が、その一つ首都高速道路湾岸線ひとしゅとこうそくどうろわんがんせんの扇島おうぎしまと大黒だいこくふ
頭とうとを結むすんでいるのが鶴見つばさ橋つるみです。横浜よこはまべ

イブリッジと並びなら、横浜よこはまを代表だいひようする橋はしで、中央径ちゅうおうけい

間長かんちよう510mは多々羅大橋たたらおおはし（広島県ひろしまけん・愛媛県えひめけん）、

名港中央大橋めいこうちゅうおうおおはし（愛知県あいちけん）に次ついで斜張橋しゃちようきようとして国こく

内第3位ない、全長ぜんちよう1020mは一面吊り斜張橋いちめんつりしゃちようきようとし

ては世界最大級の長させかいさいだいきゆうながです。

笑顔えがおです わっくんひろばの 帰り道かえみち

「わっくんひろば」は、平成21年へいせいねん（2009）3

月がつに開設かいさいされた鶴見区つるみく地域ちいきこ子育てそだ支援拠点しえんきょてんです。

しゅうがくまえ

就学前しゅうがくまえのお子さんことその保護者ほごしゃが、遊あそんだり、交こ

りゆう

流りゆうしながら、ゆっくり過すごせるひろばです。子育こそだ

そうだん

てアドバイザーに、さまざまな相談そうだんも気軽きがるにでき

おや

る、親おやと子こが「ホッ」とくつろげる自由じゆうな場所ばしょです。

太田道灌 おおた どうかん 一夜の夢の いちや ゆめ 兜塚 かぶとづか

太田道灌 おおた どうかん は室町時代 むろまち じだい の武将 ぶしょう で江戸城 え どじょう を築 きず いたこと
で有名 ゆうめい です。あるとき加瀬山 かせやま (川崎市幸区 かわさき しさいわい、夢見 ゆめ み
ヶ崎公園 が さきこうえん) に来て城 しろ を築 きず こうとして一夜 いちや をすごし
たとき、鷲 わし が飛 と んできて道灌 どうかん の兜 かぶと をくわえて駒岡 こまおか
方面 ほうめん に飛 と び去 さ り、丘 おか の上 うえ に落 お とす夢 ゆめ をみました。
道灌 どうかん はこれを不吉 ふきつ なこととして加瀬山 かせやま に城 しろ を築 きず く
のをあきらめました。鷲 わし が落 お とした兜 かぶと を埋 う めた丘 おか
が、兜塚 かぶとづか といわれるようになりました。

風はこぶチョコとビールの香りかおして

森永製菓の鶴見工場つるみ こうじょうで作られるチョコプレートやビスケットは、大正時代たいしやうじだいから全国ぜんこくへ送り出されてきました。甘い香りかおのする工場見学こうじようけんは、小学生などに人気にんきです。

日本最初に横浜山手に誕生した麒麟ビールは、関東大震災後に生麦なまむぎに移ってきました。ビールの製造過程をたどる工場見学こうじようけんや緑豊かな庭にわが人気のスポットになっています。

季節ごと 四つの表情 三ツ池公園

三ツ池公園は、日本の「さくら名所百選」のひとつにふさわしく、約80品種千本以上の桜が壮観です。緑豊かな百樹の森と満々と水をたたえる大きな三つの池にたくさんの野鳥も飛来します。新緑、紅葉など、四季折々の彩りの中でバードウォッチングも楽しめます。韓国京畿道との友好記念の코리아庭園や中国遼寧省から贈られた天馬の像もあります。

くろかわしょうぞう
黒川莊三

へいわ
平和の願い

なまむぎけんひ
生麦事件碑

ぶんきゅう ねん
文久2年（1862）8月、薩摩藩の行列と馬に乗った4人のイギリス人が遭遇し、言葉も通じず、互いの文化を知らないことから不幸な殺傷事件が発生しました。犠牲になったリチャードソンの死をいたみ、万国の平和を願い、明治16年（1883）に鶴見村戸長黒川莊三が旧蹟碑を建てました。生麦の人たちが守り続け、横浜市地域史跡に登録されました。近くには生麦事件参考館もあります。

源平五色の椿げんぺいごしき つばき 寶藏院ほうぞういん

鎌倉時代創建と伝わる馬場の寶藏院には、1本
かまくら じだい そうけん つた
の幹から五色の花を咲き分ける「源平五色の椿」
みき ごしき はな さき わ げんぺいごしき つばき
があります。推定樹齡600年以上で、「かなが
すい てい じゆれい ねん い じよう
わの名木百選」に選ばれ、3月中旬から5月初
めいぼく ひやくせん えら がつちゆう じゆん がつしよ
旬が見ごろです。一年中楽しめることのない靈泉延
じゆん み いちねん じゆうか れいせん えん
命水もあります。朱塗りの本堂には、弁才天の化
めいすい しゆぬ ほんどう べんさいてん け
身「白蛇さま」もまつられています。
しん しろへび

子育て観音 東福寺

寛治元年（1087）京都醍醐寺の勝覚僧正の開
創と伝える東福寺の如意輪観音は、堀川天皇の皇
子誕生祈願を成就させて以来、子育て観音として
信仰を集めるようになりました。江戸時代には多
くの参詣客でにぎわい、街道名物にもなった子育
て饅頭は飛ぶように売れました。芭蕉句碑「観音
の薨みやりつはなの雲」が東福寺が桜の名所で
あったことを伝えています。

山門をぬければそこは だいはんざんそうじ 大本山總持寺

そうとうしゅうだいほんざんそうじ 曹洞宗大本山總持寺は、いしかわけん 石川県から めいじ 明治44年（1

911）に移転して、平成23年（2011）に百

ねん 年を迎えます。 ぶつでん 仏殿や しうんたい 紫雲台、 さんしようかん 三松関、 ひやつけんろうか 百間廊下、

こうしゃくだい 香積台、 そうどう 僧堂などは、 くに 国の登録文化財に登録され

たいしょう た大正・昭和期の名建築です。 せんじようじき 千畳敷の広さを誇

はっとう る法堂は本堂としては ほんいち 日本一の大きさとも言われ

ぼち ています。墓地には あさの 浅野総一郎や いしはらゆうじろう 石原裕次郎など

ちよめいじん の著名人も眠っています。

四季の花 咲き競う 花木園

馬場花木園は、市内では珍しい和風の庭園です。
カタクリ、ヒオウギ、桔梗など、山野草の区画が
整備され、梅林、竹林、菖蒲田、藤棚、牡丹の小路、
萩のトンネルなどもあり、新緑、紅葉、四季折々の
草花が楽しめます。池のほとりの四阿からは水
鳥が遊ぶ姿も見られます。園内を一望できる休憩
棟は、茶会や句会などに利用されています。

末吉すえよしの台地だいちに群れたナウマン象ぞう

かみすえよし　かじやま　しゅうへん　とち　しもすえよし　そう
上末吉・梶山の周辺の土地は下末吉層という関東
に広がる平らかな台地にあります。約12万5千年前、
うみ　へい　やぶ　しんにゆう　しもすえよし　そう
海が平野部に侵入したことで、下末吉層ができま
した。下末吉層からは、ナウマンゾウだけでなく、
ムカシジカなどの化石が発見されたと伝えられて
います。



世界をつなぐ 大黒ふ頭

大黒ふ頭は、国内外の海上出入り貨物の増加などに対応するために、昭和46年（1971）から平成2年（1990）にかけて埋立てし（322ha）、保税倉庫や巨大物流センター、高速道路のインターチェンジもある最新のふ頭です。平成21年（2009）に世界最大級の客船、クイーン・メリー2が入港したのは記録的な出来事で話題になりました。先端部には「大黒海づり公園」があります。

宗泉寺 五百羅漢のお出迎え

上の宮の宗泉寺には、さまざまの姿をした羅漢像がまつられています。水仙、梅、桜など四季折々の花の香りの中で小鳥のさえずりやせせらぎの音をききながら、羅漢さんたちはそれぞれの時間をゆったりとすごしています。自分に似た顔、友達に似た顔などを探してみるのも楽しいでしょう。



田祭りに 昔をおもう 鶴見神社

鶴見神社に伝わる田祭りは、五穀豊穰・子孫繁栄を願う行事として鎌倉時代から毎年お正月に行われてきました。明治維新後百年間途絶えていましたが、稲作文化を伝える貴重な伝統行事・民俗芸能として、昭和62年（1987）に復活再興されて以来、現在は毎年4月29日に行われています。早乙女や子牛の役として小中学生も参加しています。

茶色ちやいろから 黄色きいろにかわった 鶴見線つるみせん

京浜工業地帯けいひんこうぎょうちたいを走る鶴見線つるみせんには、平成8年へいせいねん（1996）3月がつまで、クモハ12形けいという戦前形国電せんぜんがたこくでんと呼ばれた茶色ちやいろい電車でんしゃが走はしっていました。この車両しゃりょうは、当時とうじ日本にほんで最古さいこの電車でんしゃで、床ゆかが木きの板張いたばりの車両しゃりょうでしたが、今いまでは引退いんたいし、黄色きいろい電車でんしゃに変わりました。海うみの上うえにある海芝浦駅うみしばうらえきには、公園こうえんもあり、小さな旅ちいを楽たのしむ人ひとたちにも愛あいされています。

鶴見川 夏の夜は 花火大会

鶴見川は、多摩丘陵の山中を源流とし東京湾へと
流れる、全長42・5kmの横浜市唯一の一级河川
です。むかしは氾濫や洪水を繰り返す暴れ川でし
たが、近年は堤防も整備されて川沿いには散策路
もでき、憩いの場になっています。昭和62年（1
987）に区民の手づくりではじめられた花火大
会（現在の鶴見川サマーフェスティバル）は、た
くさんの人でにぎわう鶴見の夏の風物詩です。

寺尾城てらおじょう 鶴見つるみにあったお城しろだよ

中世ちゅうせいの頃ころ、寺尾てらおの城主じょうしゅ諏訪すわ三河守かわのかみご五代だいの城しろ（館やかた）
があつた馬場ばばの殿山どのやまには、「寺尾城址てらおじょうし」の碑ひがあ
ります。空堀からぼりや土塁どるいなど、中世ちゅうせいの城郭じょうかくを伝える貴き
重ちゅうな遺構いこうは、殿山公園どのやまこうえんとして整備せいび・保存ほぞんされました。
城址じょうし麓ふもとの観音堂跡かんのんどうあとからは、黄瀬戸きせとの壺つぼに入はいった古こ
銭せん4千枚せんまいが出土しゅつどしました。馬場ばばや諏訪坂すわざかなどは寺てら
尾城おじょうや諏訪氏すわしゆかりの地名ちめいです。



東洋一の遊園地花月園

大正3年（1914）に開かれた日本で最初の児童遊園地鶴見花月園は、東洋一と呼ばれた大遊園地でした。中でも大山すべりは子どもたちに大人気でした。日本で最初の国際児童絵画展も開催されました。「東の宝塚」とも呼ばれた少女歌劇では、一寸法師や牛若丸が登場するおとぎ歌劇も上演されました。ダンスホールには小説家の谷崎潤一郎も踊りに来ました。戦後は競輪場になりました。

なんきよくかん そくせん

南極観測船

「ふじ」と「しらせ」は

鶴見産

しょうわ

ねん

昭和31年

(1956)

しよだい

なんきよくかん そくせん

に初代南極観測船として「宗

谷」を大改造したのがきっかけとなり、

二代目の

「ふじ」、

三代目の「しらせ」は、

鶴見の日本鋼管

浅野ドックで造られました。惜しくも

四代目の「新

しらせ」は鶴見産ではありませんが、

鶴見の造船

技術がわが国の南極観測船に活かされてきまし

た。第7次越冬隊の武藤晃隊長は鶴見に住んでい

ました。

にぎやかに 昔も今も 蛇も蚊も祭り

まいねん がつだい にちようび 毎年6月第1日曜日、「蛇も蚊も出たけ、日和の

雨け」と勇ましく掛け声をかけながら、茅で作つ

た大きな蛇を担いで家々を回る「蛇も蚊もまつり」

は、江戸時代から続く生麦の伝統行事です。

本宮の道念稲荷社と原の神明社の境内でそれぞれ

20mもある蛇を作り、疫病退散、雨乞いを祈って、

大人も子どもも一緒に担ぎます。

ぬくもりのある町まちつくろう 鶴見人つるみじん

鶴見つるみを訪おもとずれた人ひと、鶴見つるみに移うつり住すんだ人たちが「鶴見つるみの人は親切しんせつであつたかいですね」「知しらない人ひとに助たすけられました」と、嬉うれしそうに話はなしてくれま
す。「人情にんじやうのまち鶴見つるみ」の良よさ、昔むかしからある鶴見つるみ
の気風きふう、助たすけ合あひ、親切心しんせつしんを大切たいせつにして、だれも
が「住すんでよかつた」「このまちで暮くらせてよかつ
た」と言いえる、よりよいまちをみんなで築きずいてい
きましよう。

ねぎぼうず 空そらの青あおさと競きそってる

じゅうたくち

住宅地としてめざましく発展した鶴見の高台に

はってん

つるみ

たかだい

いんりょうすい

きょうきゅう

飲料水を供給するため、昭和8年（1933）

しょうわ

ねん

（1933）

はいすいけ

はいすいどう

けいかく

しょうわ

ねん

に配水池と配水塔が計画され、昭和12年（19

はいすい

かん

せい

けいかく

しょうわ

ねん

37）に完成しました。馬場の高台の天空にそ

ば

たかだい

てんくう

たか

えんどうけい

はいすいどう

びえる高さ26mの円筒形の配水塔は、「ねぎぼう

あいしょう

つるみ

ず」の愛称で親しまれている鶴見のランドマー

した

クの一つです。

ひと



のんびり 釣りをするなら 大黒海づり公園

大黒海づり公園は横浜市の海づり施設です。横浜
ベイブリッジを眺めながら、行き交う船と水鳥な
どをのんびり、ぼんやり楽しむのは、最高のぜい
たくの一つでしょう。釣りは、四季を通じて、タ
ナゴ、黒鯛、メバルなどが釣れます。潮風の心地
よい海の広場や池、オブジェなど、散策も楽しめ
る公園です。

馬場の赤門 名主の門

江戸時代、東寺尾、北寺尾、西寺尾、馬場の4か
村の総代名主を勤めた澤野家は、幕府から名字帯
刀と紅殻塗りの門を許されました。幕末には赤門
の2階に村役人たちが集まって英語の勉強もした
そうです。残された長屋門は、馬場赤門公園とし
て整備されました。



ひびきばし
響橋

みんなは呼んでる
めがね橋

国道1号線をまたぐ美しいアーチ形の響橋は、昭和16年（1941）に開通しました。「夜霧の第二国道」の歌でも有名な第2国道は、昭和15年（1940）に予定されていた東京オリンピックの馬拉ソン道路として造られました。橋の完成後に両側から山を切り崩し、中央部分に土が残り、まるでめがねのようだったことから「めがね橋」と呼ばれるようになったともいわれています。近くにあった洋館は、映画「陽のあたる坂道」に登場しました。

ふれーゆで 心も体も ぽっかぽか

横濱市高齢者保養研修施設「ふれーゆ」は、「高齢者が安心していきいきと暮らせる福祉都市の実現」を目指して整備された施設です。隣接する資源循環局鶴見工場の焼却炉からの余熱を有効利用した温水プールや大浴場、温室があります。高齢者だけでなく、子どもたちにも人気のスポットです。ふれーゆから眺める夕日もきれいです。

弁天池べんてんいけ 生き物いきもの いっぱい 楽しいたの な

寺谷てらやにはかんがい用の水みずをたたえた大池おおいけがありました。鶴見臨海部つるみりんかいぶの工場こうじようで働く人たちで、鶴見の人口じんこうが急増きゅうぞうしたので、昭和しやうわの初めはじに池いけは埋め立てられて住宅地じゆうたくちになりました。大池おおいけの名残なごりの弁天池べんてんいけには、ザリガニやカメなどたくさんさんの生き物いきものが生息そくしていて、子どもたちの自然観察しぜんかんさつの場ばになっています。時折白鷺ときおりしらさぎも飛んで来きます。

ホタルわく 獅子ヶ谷森の 闇夜かな

雑ぞう木き林ばやしの 蟬せみ時し雨ぐれや 野や鳥ちようの 声こえなど、 獅し子しヶが谷や市もり民みんの
森もりは 自し然ぜんが いっぱい。 散さん策さく路ろも 整せい備びさ されて います。
夏なつの 夜よる、 運うんが よ ければ 新しん池いけや 西にし谷や広ひろ場ばの 泉いずみで 螢ほたるに
出で会あえ るか も し れ ませ ん。 闇やみ夜よに は、 都と会かいで は 体たい
験けんで き ない 街がい灯とうも ない 本ほん当とうの ま っ 暗くら闇やみを 味あじわ う こ
と が で き ま す (恐こわい！)。 で も、 絶ぜ対たいに 子こど も た
ち だ け で 行いっ て は い け ま せ ん。

まちかど彩るサルスベリいろどり

鶴見区制70周年を記念して、平成9年（1997）

10月に区の木に制定されたサルスベリは、8月頃

に紅色の濃淡や白色の美しい花が咲く、ミソハギ

科の落葉中高木です。長い期間、紅色の花が

咲いていることから「百日紅」とも書きます。

鶴見区民の花サルビアは、活気あるまち鶴見を象

徴する花として選ばれ、平成3年（1991）11

月に制定されました。

みんななかよし 多文化共生のまち 鶴見

鶴見区には80か国を超える国の人々が暮らしています。さまざまな国籍や民族・文化が織りなす「多文化の彩り」は、鶴見の豊かさであり、魅力の象徴です。平成22年（2010）12月には、多文化共生・交流の拠点となる「鶴見国際交流ラウンジ」がオープンしました。



むかし いま
昔も今も みんなを見守る ぼてふり地蔵

え ど こう き なま むぎ
江戸後期、生麦の河岸から寺尾や末吉にアサリや
さかな てんびん ぼう かつ
魚を天秤棒で担ぎ、売り歩いた「ぼてふりさん」
たちが、みかど ち ひとやす
三角の地で一休みし、「良き商いができ
る ように …」と手 をあ 合 せて地蔵を倒し、帰りに
ふた た お
再び起こして願解きをしたといわれています。昭
わ ねん
和20年（1945）の だいくうしゅう
大空襲により台座のみ残り
ました。しやうてん が い ひとびと
つくの商店街の人々により、平成15年（2
003）に再建立されて、げんざい
現在 は地域のシンボル
となっています。

めざせ若者サイエンスフロンティア

よこはましりつよこはま

こうとうがっこう

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校で

は、生命科学、ナノテク・材料、環境、情報の先

たんかぐきじゅつ

たいけん

おどろ

かんどう

端科学技術の「ほんものの体験」をし、「驚きと感動」

による「知の探究」により、「世界で幅広く活躍

にんげん

いくせい

めざ

しだいれんけいだい

する人間の育成」を目指しています。市大連携大

がくいんりかがくけんきゅうじよ

けいひんりんかいぶけんきゅうかい

学院や理化学研究所などがある京浜臨海部研究開

はつきよてん

ちたんきゅう

発拠点、知の探究のメッカになっています。

もくもくと日本初の陸蒸気

日本にほんで最初さいしよに鉄道てつどうが開通かいつうしたのは東京とうきよう（現新橋駅げんしんばしえき）と

横浜よこはま（現桜木町駅げんざくらぎまちようえき）の間あいだです。鶴見つるみはその中なかにあり、

6番目ばんめに古い駅えきです。明治5年めいじねん（1872）に両方りやうほうの

駅えきで開通かいつうの祝典しゅくてんが行われ、翌日よくじつから一日9往復いちにちおうふく、10両りやう

の車両しやりようで運行うんこうされました。その様子ようすは煙突えんとつから吐き出はだ

す煙けむりとすさまじい轟音ごうおんで驚きと珍しさめずらに、沿線えんせんは見物けんぶつ

人で賑わったそうです。時速約60キロ、1時間じかんで走って、

運賃うんちんは下等かどうでも今の値段ねだんで約五千円やくごせんえんもしたそうです。

やど 矢止め地蔵の良忠寺 りようちゆうじ

りようちゆうじ

良忠寺は、仁治元年（1240）に浄土宗の僧、

じようとしゆう

りようちゆう

良忠が創建しました。境内には、新田義興が矢口

やぐちの

わたし たなか

渡の戦いで放った矢が、川崎の塚越を飛び越えて

はな

や

かわさき

つか こし

と

こ

と

止まったと伝えられている矢止め地蔵がありま

つた

や

ど

じ

ぞう

や

す。矢が向かった先なので矢向の地名がついたと

む

さき

や

ちめい

も言われています。弘法大師作と伝える身代り地

い

こうぼうたい

し

つた

み

がわ

ぞう

蔵や福神漬の元祖大木家の墓、煉瓦工場従業員の

ふくじんづけ

がん

おおきけ

はか

れんが こうじようじゆうぎよういん

慰霊碑もあります。

いれいひ

湯花神事ゆばなしんじを伝えるつた 愛宕神社あたごじんじやの夏祭りなつまつ

湯花神事ゆばなしんじは、湯立ゆだち（ゆだち・ゆだて）神事しんじとも呼よばれ、豊作ほうさくを祝いわい、神かみに感謝かんしゃする収穫祭しゅうかくさいとして古ふるくから行おこなわれてきました。神職しんしよくが湯釜ゆがまに浸ひたした笹ささの葉はに付ついた湯玉ゆたまを参拜者さんぱいしやに放散ほうさんし、人々ひとびとの無病むびよう息災そくさいと家内安全かないあんぜんを祈願きがんします。昔むかしは各所かくしよで行おこなわれていましたげんさいが、現在いま、鶴見区つるみくでは、下末吉しもすえよしの愛宕あたご神社じんじやに伝つたえられています。毎年まいとし8月がつ第1日にち曜日にちようび、祭礼さいれいの朝あさに行おこなわれています。（8月がつ1日にちが日曜日にちようびの場合ばあいは第2日だい曜日にちようびに行おこなわれます。）

よねまんじゅう 鶴見名物おいしいね

江戸の昔、東海道の鶴見橋（現鶴見川橋）は景色もよく橋の両側はいろいろなお店でにぎわっていましたが、その中でも、名物のよねまんじゅうを売る店は、多いときには40軒もあったそうです。普通まんじゅうは小麦粉で作られますが、よねまんじゅうは米の粉を使っていたので腹もちがよく、街道を歩く旅人に喜ばれたそうです。今でも鶴見名物として愛されています。

ランナーがたすきをつなぐ

はこね えきでんちゅうけいじよ
箱根駅伝中継所

しょうがつ こうれい にん き
お正月恒例で人気のある箱根駅伝の往路1区から

く ふくろ
2区、復路9区から10区への中継所は国道15号線

いちば こうばん まえ ほ どうきようした もつ
の市場交番前の歩道橋下に設けられます。小旗を

ふ ひと えん どう
振る人たちが沿道にあふれ、熱い声援を送ります。

じ もと ひと ちか こう えん
地元の人も近くの公園にテントを張り、選手

かんけい しゃ おう えん
や関係者をあたたかく応援しています。近くには

はな く
「花の2区」をたたえるランナー像が平成9年（1

997）に建てられました。

竜神りゅうじんが二つに分わけた二ツ池ふた いけ

獅子しヶ谷が やと駒岡こまおかに隣接りんせつする二ツ池ふた いけは、もとは一ひとつの池いけでしたが、竜神りゅうじんによつて二ふたつに分わけられたといふ伝説でんせつがあります。ヨシ、マコモなど水生すいせいの植物ぶつが豊富ほうふで、県内けんないでは絶滅ぜつめつの危機ききに瀕ひんしているイトトンボやアオヤンマなど貴重きちような昆虫こんちゆうの生息地せいそくちになつています。地域ちいきの人たちの願ねがいが通つうじて、将来しょうろは自然しぜんや生物せいぶつに配慮はいりよした公園こうえんとして整備せいびされる予定よていです。

ルビー色いろ 夜空よぞらにきらめく 臨海部りんかいぶ

京浜工業地帯の海辺には石油コンビナートがたく
さんあり、昼夜24時間操業の工場では、夜は仕事
や安全面から蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯など
で明るく照明をしています。石油精製工場から放
出されるガスの炎も加わって、色とりどりの光に、
夜空が美しく彩られています。まさに百万ドルの
夜景です。



レトロの香りのこる 国道駅

国道駅は、昭和5年（1930）に鶴見臨港鉄道の開通と同時に開業しました。大正15年（1926）に開通した国道の上に造られたので、その名が付きしました。生麦魚河岸へ続くアールヌーボー風の駅舎は、テレビや映画にもしばしば登場しました。構内にあった臨港デパートでは、食品や衣料品などを販売し、多くの買物客でにぎわっていました。当時の最新技術で造られたレトロな佇まいが、今も多くの人を惹きつけています。

論より証拠 浅野の埋立て

あさの そういちろう

じつぎょうか

しぶさわえいいち

やすだぜん じろう

浅野総一郎は実業家の渋沢栄一・安田善次郎など

きょうりよく

の協力をえて、

にほん

きん だいか

こうぎょう

はってん

ねが

つる み

とお あさ

う た

あさひがらす

しばうら

て、鶴見の遠浅の海岸を埋め立て、旭硝子や芝浦

せい さくじょう

げん どうしば

にほん こうかん

げん

あさの ぞう

製作所（現東芝）、

日本鋼管（現JFE）、

浅野造

せんじょう

きぎょう

ゆうち

けいひん こうぎょうちたい

きそ

船所などの企業を誘致し、京浜工業地帯の基礎を

きざ

つる み

せん

あさの えき

な のこ

築きました。鶴見線の浅野駅にその名を残してい

そうせつ

つる み

あさの がくえん

おか

りん かいぶ

みお

ます。創設した浅野学園の丘に臨海部を見下ろす

どうぞう

た

銅像が建っています。

ワックくんはいつもみんなの人気者

ワックくんは、区制60周年を記念して昭和63年（1988）に誕生した鶴見区のマスコットです。つるみくのきっかけです。鶴見区の形がワニの顔の形に似ていることも理由の一つです。区内各所で行われるイベントに出没し、「ワックくんがきた!」と、子どもたち到大歓迎されています。タオルハンカチやワックくんクッキーなどワックくんグッズも大人気です!

ん・ん・んみんなでうなづくあかるい鶴見つるみ

鶴見つるみは住みすよいまち、楽しいまちです。みんな仲なか

良よしです。隣近所となりきんじよの人たちがお互たがいに声こえをかけあ

い、協力きょうりよくしながら、よりよいまちづくりをすすめ

ています。のびのびすくすく育そだつ子どもたちを地ち

域いきの人たちが見守まもっています。一人ひとりひとりがまち

づくりの主人公しゅじんこうになって、「ワックくん鶴見カルタ」

で友ともだちの輪わをひろげ、もっともつと明あかるい地域ちいき

社会しゃかいを築きずきましょう！

